

をはじめ、欧米や台湾などのアジア諸国にも積極的に技術を輸出、83年からはそれらの技術を生かして、ファイナセラミックス分野に進出し、半導体関連などの装置部品や、FA関連部品などを主体に高精度で多彩な製品を販売している。同分野でも、大学や公共機関と連携して、独自の商品開発を進めており、現在、九州工業大学のロケット開発における部品の一部に検討されているという。2003年から独立行政法人産業技術総合研究所と共同で応力発光材料の研究開発を世界に先駆けて推進するなど、全社員の75%が技術開発や生産部門に属し、特許は国内21件、国外6件を保有している。同社は1950年創業、54年設立。資本金5千万円。従業員190人（うちパート20人）。2011年3月期は売上高86億56百万円、2億95百万円、自己資本比率26%。

（高崎）

LED式省エネ信号灯器が「中小企業優秀新技術・製品賞」

信号電材 消費電力、コストともに2割減

交通信号灯器、信号柱製造の信号電材㈱（大牟田市新港町、糸永康平社長）は4月4日、公益社団法人りそな中小企業振興財団（東京都、水田廣行理事長）と日刊工業新聞社（東京都、井水治博社長）主催で、優れた技術や製品を表彰する「中小企業優秀新技術・新製品賞」の審査で優秀賞を受賞した。

受賞したのはLED式省エネ西日対策交通信号灯器「108タイプ」。同製品は、従来192個使用していたLEDの球数を108個に減らし、消費電力、コストともに2割減を実現した。球数を減らしたことが評価を受けた。点灯時のばらつき感を無くすために「拡散用フロントレンズ」を採用したほか、LEDから発光される上方へ向かう光を効率よく前面に集光する「集光用インナーレンズ」を使ったのが特徴。朝日や西日が直射した際に、各レンズの反射光を防止する独自の技術で視認性を確保しているという。互換性があるため、現在設置されている他社の信号灯器の筐体（きょうたい）に取り付けることができ、昨年9月の発売から7千灯以上を出荷している。「中小企業優秀新技術・新製品賞」は、1989年に公益財団法人りそな中小企業振興財団、日刊工業新聞社が主催、経済産業省が後援となり、中小企業が開発する優れた新技術や製品を表彰し、中小企業の技術進行を図り、産業の発展に貢献することを目的としているもので、優秀賞の受賞は初めて。糸永康平社長は「日頃の地道な技術の積み上げをこういう形で評価していただけたのはとても嬉しい。技術開発の今後の励みになる」と話している。

（村岡）